

# 外国にルーツを持つ子どもの言語の捉え方 —学齢超過で来日したネパールの子どもの縦断調査から—

富田江美子（一橋大学大学院言語社会研究科 院生）

## 1. 研究の背景

### 学齢超過の子ども

\* 社会的に「見落とされがち」な子ども

### ネパールの子ども

\* 年々増加傾向にある

\* 多言語環境で育った子どもの言語を捉えた研究が少ない

→多言語環境で育った学齢超過の子どもの言語の捉え方に注目する

○子どもの困難、葛藤などを丁寧に読み解くことで、その先の子どもたちへの支援策の手立てとする

## 2. 先行研究

幼少期に複数言語環境で成長した経験のある、外国にルーツを持つ人々の言語の捉え方、また言語学習や自己形成の変化を探るため、ライフストーリーインタビュー法で調査した研究  
→尾関(2013)川上(2010)など

※学齢超過の子どもという社会から見えづらい存在に焦点を当てた研究、学齢超過の子どもを縦断的に調査した質的研究は少ない

## ネパールの言語

公用語：ネパール語 → 45%

その他の言語：インド・アリア語族のマイティリ語、ポジプリ語、タルー語、チベット・ビルマ語族のタマン語、ネワリー語、ライ語等 (JICA 2012) → 55%

イギリスとの関係が深かったことや、都市部の一部学校の教育公用語のため、英語もよく通じる (DTACネパール観光情報局 2017)



(SEVEN SUMMIT TREKS <http://www.sevensummittreks.com/Nepal>)

## 3. 研究方法

調査方法：半構造化インタビュー

調査：2016年3月～7月(計6回30分～1時間程度)

インタビュー内容：\* 言語に対する思い

(最近の生活/高校生活への思い/複数言語環境)

対象者：

名前	性別	年齢	ルーツのある国	母語	使用言語
レイ(仮名)	女性	17歳	ネパール	ネパール語	ネパール語/英語/日本語

## 4. インタビューデータ・考察

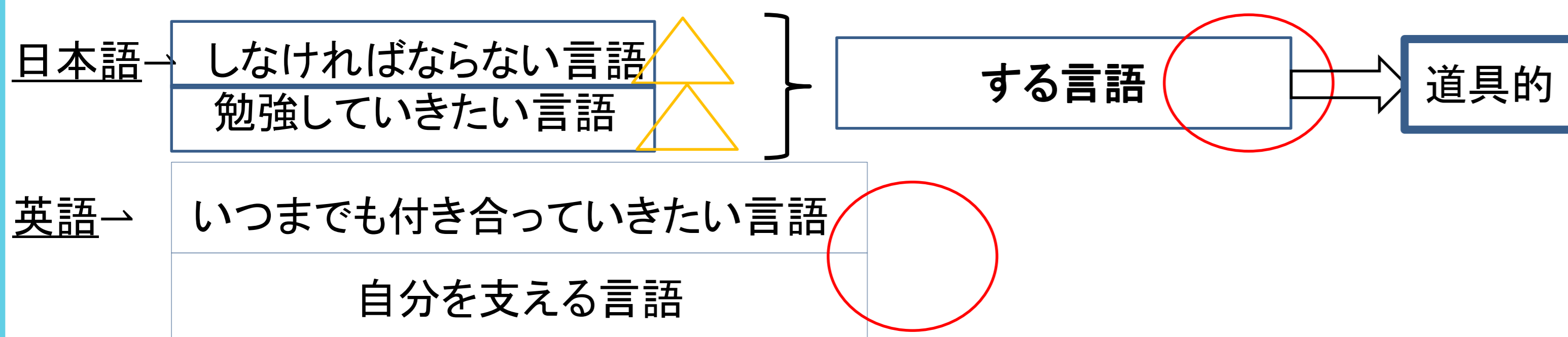
### 4.1. 日本語学習を支える英語学習成功体験

レイはネパールで、英語のみを使い、ネパール語が禁止されていた学校へ通っており、そのおかげで英語ができるようになったと語っていた。

#### ① したいは英語、するは日本語

筆者：将来日本語と英語どっちをたくさん使う仕事がいい？

レイ：なんか・・・したいは英語、でも日本の看護師なるだから・・・日本語。



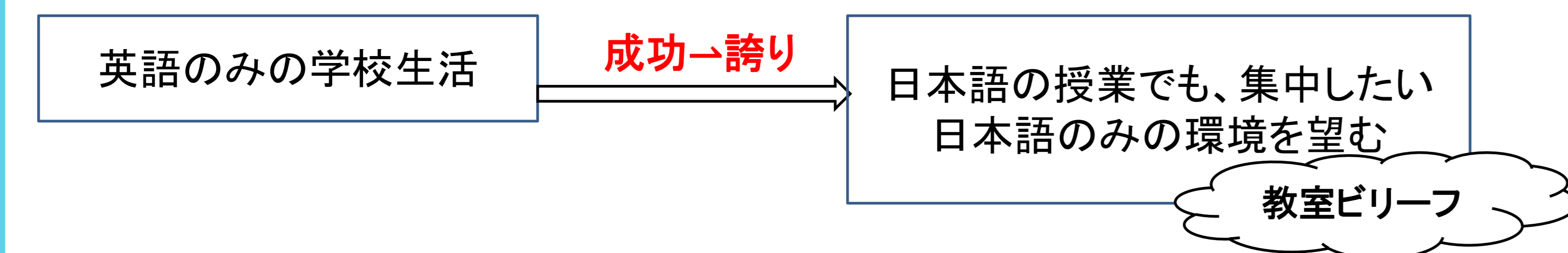
#### ② 日本語だけに集中したい

筆者：日本でも同じことをしたい？日本語だけ、ネパール語英語ダメ。したい？

レイ：したい。

筆者：したいんだ。

レイ：授業の時も、なんか私ずっとconcentrationして勉強したい、聞きたい。



※「外国語の学習に成功した」という意識 → 次の言語環境への自信

### 4.2. ネパール・ネパール語に対する思い

#### ① しょうがない

筆者：ネパール語は？

レイ：できない、忘れた全部。

筆者：何を忘れたの？話します？

レイ：話すはできるでも、文字はなんか、忘れた。

筆者：あーそっかそっか。読みますか？

レイ：読みますはできる、でも書くはちょっと。

(中略)

筆者：自分の中の一番basicはどれ？

レイ：ネパール語？

筆者：ネパール語。

レイ：子どもから子どもの時から。

筆者：今ネパール語書きますがちょっと難しいでしょ、それはどう思う？

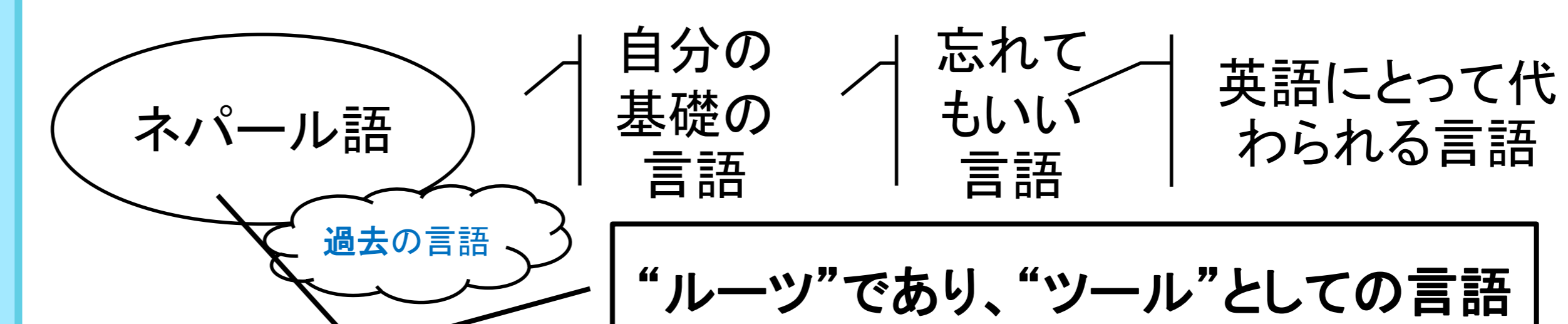
レイ：しょうがない(笑)

筆者：しょうがない、あそっか、しょうがないよね。

レイ：なんか読むはできるだから、でもあんまり使わないから、英語使うから。

筆者：英語使うからね。

レイ：ネパールも行ったとき英語が1番だから、そんなに心配ではありません。



“ルーツ”：自分の基礎をつくった言語であり、言語能力に関して忘れても、それを使って生きてきたというルーツは変えられない

“ツール”：使えなくても仕方ない、ツールであるので忘れても心配するほどでもない言語

※母語＝アイデンティティ という公式が成り立たない 小張(2004)

#### ② レイの中に息づくネパール

レイ：なんかネパールにはちょっとそんなナースがいらないから、そこに行つて仕事やりたい言つてた、今そんな気持ちある。

→ネパールには、他国とネパールとを行き来する国際的な看護師がいらないため、ネパールに行き支援をしたい。

レイ：私もネパールの文化についてダンス教えたい。

→自国のダンスを大切に誇りに思い、教えてみたい。

### 4.3. 複数言語環境の捉え方

#### ① 大変じゃない

筆者：今の、今日本語と英語とネパール語全部使うでしょ？

レイ：はい。

筆者：それは大変じゃない？

レイ：大変じゃない。

筆者：なんか、confuse しない？

レイ：しない。

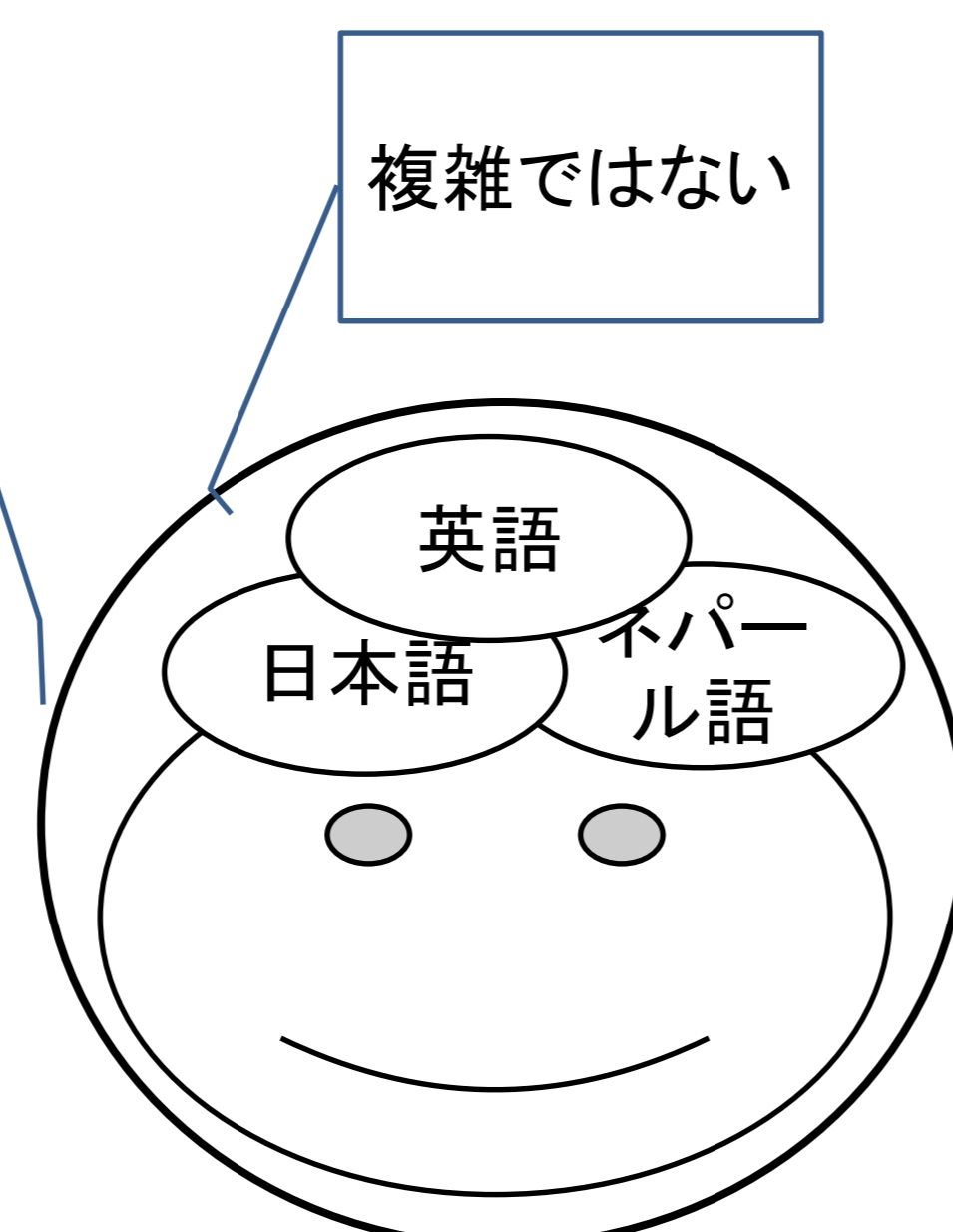
筆者：日本語英語ネパール語で、なんかcomplicated?

レイ：complicated.

筆者：ない？

レイ：それはない。

※3言語環境の中で生活し、流動的な言語変化とともに毎日を送っている  
整理されていない混沌の中にある→自由に言語と付き合っている



## 5. 子どもの日本語教育への貢献

○外国語学習に成功したという言語能力意識がレイを支える

○母語に固執してはいないが、自由な発想で母語を捉え、ネパールを大切に思う

○複数言語環境をあるがままに受け止めるレイの姿勢が、レイ自身をつくっている

言語の捉え方を詳細に読み解く→

①子どもの言語アイデンティティに寄り添う

②彼らと我々支援者とがよりよい関係性を作り、支援を進めるための一助になる

### 【引用文献】

尾関史(2013)『子どもたちはいつ日本語を学ぶのか-複数言語環境を生きる子どもへの教育-』ココ出版  
 小張順弘(2004)『フィリピン多言語社会での言語とアイデンティティ-セブアノ多言語話者の事例から』小野原信善・大原始子編著『ことばとアイデンティティ-ことばの選択と使用を通して見る現代人の自分探し』三元社、pp.53-76  
 川上郁雄(編)(2010)『私も「移動する子ども」だった-異なる言語の間で育った子どもたちのライフストーリー-』くろしお出版  
 ネパールの概要(基本情報、経済状況、ビジネス環境) [https://www.jica.go.jp/activities/schemes/priv\\_partner/...att/invest\\_nep\\_01.pdf](https://www.jica.go.jp/activities/schemes/priv_partner/...att/invest_nep_01.pdf) JICA独立行政法人 国際協力機構 2017年2月28日閲覧  
 ネパールの基礎情報 <http://www.dtac.jp/asia/nepal/> DTACネパール観光情報局 2017年2月28日閲覧